

大学の世界展開力強化事業（平成27年度選定）中間評価結果

大学名	○東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学
整理番号	L-5
事業名	日本と中南米が取組む地球的課題を解決する文理協働型人材養成プログラム

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">S</div>	優れた取組状況であり、事業目的の達成が見込まれる。
(コメント)	<p>本事業は、「東京武蔵野国際学究都市構想」に賛同する3大学が地球規模の課題解決について、東京外国語大学のリベラルアーツ・地域研究の研究教育力、東京農工大学の環境・食糧・エネルギー分野の研究技術力、電気通信大学の情報・ICT分野の研究技術力というそれぞれの特徴を活かしながら連携協力を進めることにより相乗効果を発揮し、戦略的に実践型グローバル人材育成を追求する研究教育プログラムである。</p> <p>事業展開においては、平成27年度からの2年間の活動により、3大学の連携協力が教学面に大きな影響を与えるまでになるなど、着実な事業の実施とその成果が認められる。</p> <p>3大学の特徴や役割を十分に活かして構成される派遣学生の「トリプレット」は、文理協働型学修が可能となる特徴的な取組であり、高い学習効果が期待できる。また、学生の専門性、安全性等に総合的に配慮したインターンシップが実施され、文理協働と異文化間の協働が多様な形態で実現するよう一貫した流れで組み立てられている。受入学生にはバディ制度によるきめ細やかな支援と、日本語・日本事情の教育プログラムを経て履修計画に基づく単位認定がなされるなど、質の保証にも十分な配慮が認められる。このほか、危機管理についても学生の安全管理の徹底と情報提供が行われており、学生が安心して就学できる環境が整備されている。</p> <p>今後は、ダブル・ディグリー制度の設置に向けた具体的な活動と実施がなされることと、学生自身が中南米諸国における地球規模の課題を見つけ、その解決に向けたプロジェクトが立ち上げられることを期待する。</p> <p>最後に、今後も補助期間終了後の継続的な実施を見据えた事業計画の策定と安定的な財源確保に努め、学内及び関係機関との質保証を伴う国際教育連携の推進と、将来の我が国の更なる発展に向け、積極的な事業展開に取り組まれることを期待する。</p>